



FUKUOKA ASIAN ART MUSEUM

NEW YEAR'S ART

GO AROUND NEW YEAR'S ART

あじびニュース
Fukuoka Asian Art Museum News
Ajibi News

あじびニュースvol.89
2023年1月1日発行

企画・編集・発行：福岡アジア美術館
編集・執筆：瀬口賢一（コモン編集室）
デザイン：長木香織
印刷：株式会社四ヶ所

<https://faam.city.fukuoka.lg.jp/>
WEB >



新春。ことはじめの正月。初々しさと清々しさに包まれる我が身を、今年は真っ先にアートの旅へと連れ出すことにする。ここはひとつ新年にちなみ、はじまりのアルファベット〈A〉をテーマに。私の好奇心を突く晴れがましい〈NEWYEART/ニューイヤーアート〉を求めて。

ART COLLECTIONS 2023.1.2月ー3.21火 福岡アジア美術館 コレクション展

アジア23ヶ国・地域の多様なジャンルの作品の中から構成する、向こう3ヶ月の主な展覧会をご紹介します。



チット・ブアブット[タイ]《上野公園、東京美術学校》1942年
Chitr (Prakit) Buabussaya (Thailand) Ueno Park, the Tokyo Academy of Fine Art, 1942



キンスウェーウィン[ミャンマー]《1980年11月15日》1981年
Khin Swe Win (Myanmar) 15th November 1980, 1981

Exhibition01 旅立ちのとき Time of Departure

受験や卒業を経て新たな生活へと旅立つ季節にあわせ、卒業や旅立ち、学び舎をテーマにした作品を紹介します。タイを離れ日本で学んだ作家が桜咲き誇る春の学び舎を描いた作品など、人生の折々に寄り添うような作品を見つめながら、あなた自身の大切な思い出を振り返ってみましょう。

なぜ白い顔？

AJIMI 逸品を“味見”（予行鑑賞）して、本展に備える！

キンスウェーウィン[ミャンマー]《1980年11月15日》

画面の中央には、ガウンと角帽を着た人物と、その隣に座る人物。何故かふたりの顔は白いままだ塗り残されています。この作品は、作者の大学の卒業式の思い出に基づいていて、大学を卒業しても仕事を得不られる学生が多いことに着想したものです。ミャンマーでは、卒業写真を家の居間に飾る習慣があります。画面のふたりの顔が白いままなのは、観た人がそれぞれの卒業式の大切な記憶や気持ちを重ねられるようにという、作者の思いが込められているのです。



アマンダ・ヘン[シンガポール]《発展-もうひとりの女 #4》1998年
Amanda Heng (Singapore) Development-Another Woman #4, 1998

Exhibition02 「私」から問うーアジアの現代写真 I

Ask Myself First: Asian Contemporary Photography I

写真作品が盛んに制作され始めた1980年代以降の、作者自身を写した作品を紹介します。



イン・シュゼン(尹秀珍) [中国]《スーツケース2001》
2001年 Yin Xuzhen (China) Suitcase 2001, 2001
photo by Gondou Makoto

Exhibition03 境界を行き交うーアジアのインスタレーション I

Crossing Borders

ー Installation Art of Contemporary Asia I

2000年代以降に制作されたアジアの大型インスタレーション作品を紹介します。



ニンディティオ・アドピルノモ [インドネシア]《私はそんなジャワ人ではない》2000-01年
Ninditoyo Adipurnomo (Indonesia) I am not that kind of particular Javanese, 2000-01,
photo by Gondou Makoto

Exhibition05 あじびコレクションX「POSTWAR / 戦後」

Ajibi Collection X POSTWAR

今なお戦争に苦しむ国が世界にあふれるなか、ベトナム、カンボジアの人々にとっての戦後(POSTWAR)とは。

Exhibition06 アジアの近現代美術ー黎明期から現代まで

Modern and Contemporary Asian Art: From Its Dawn to the Present Day

アジア近現代美術の代表的な所蔵作品で、19世紀から現代までのアジア美術の流れをたどります。

表紙作品紹介



ファン・リジュン(方力鈞) [中国]《シリーズ2 No.3》(1992年)

作品紹介 ファン・リジュン(方力鈞) [中国]《シリーズ2 No.3》(1992年)
作者は自らをモデルに、同じ顔で同じ笑みを浮かべる人物を繰り返し描きました。社会の不条理に対する作者の鋭い眼差しが、歪んだ笑みの奥から浮かび上がるようです。本作はコレクション展「アジアの近現代美術」に出品中。



ガネーシャ

ヒンドウの神々の美しさのみならず、デザインを通して「夫婦・配偶神」、「化身」、「変身系」、「兄弟」、「姉妹」などの関係性が学べます。これから宗教図像を鑑賞する際、どのような場面を描いているのかを紐解く資料にも、会話が広がるお土産としても！

【販売場所】

福岡アジア美術館ミュージアムショップ ロンホア
福岡市文化芸術振興財団オンラインショップ
<https://ffac.shop-pro.jp/>

「ヒンドウの神様相関図」を常に携帯できるよころび!?

当館で2022年1月～3月に開催した特別展「ヒンドウの神々の物語」。その際に展示、配布され人気を博した「ヒンドウの神様相関図」がA4クリアファイルになって登場！
福岡アジア美術館のコレクションをもとに製作されました。

ご利益あれ～



シヴァ

あなたの故郷や国では新年、どう過ごしてる？ NEW YEAR'S CELEBRATION IN ASIA!

Q1 あなたの故郷や国では、どのように新年をお祝いしますか？

How do you celebrate your new year in your place or in your country?

A1 台湾では旧暦(太陰暦)によるお正月(旧正月)を祝います。家族みんなで集まりごちそうを食べますが、食べ切らずに翌日の昼食として少し残しておきます。これは豊かな一年になることを願うものです。夕食が済んだら年長者が「偶数または縁起の良い額でお金が入った」赤い封筒のお年玉を子どもに渡して、一緒に思い思いに過ごします。



台湾
お正月のごちそう

A2 毎年、旧正月には福を呼ぶための大掃除をします。

We clean house thoroughly for the Lunar New Year to welcome good fortune every year.



ゴン・ジェション(耿傑生) Keng Chieh-Sheng
(台湾出身・2022年 第2期滞在アーティスト)

Q2 新年を祝う際に欠かせないものはなんですか？

What are the must-haves for you to celebrate the New Year?

A1 韓国では新年のお祝いが2回あります。1月1日と旧正月です。大晦日に人々はソウルの鐘路に集まり、元日には普信閣の鐘が33回鳴る音を聞きます。そして日の出を見て新年を迎えます。



韓国
友人と初日の出

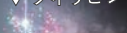
A2 旧正月にはみんなが韓服を着てご先祖さまや年長者へ挨拶をします。子どもはお年玉をもらいます。私は家族とお餅のスープをいただきます。新しい年を迎えるのにこのスープを食べるのがよいとされています。

On Lunar New Year's Day, people wear hanbok and bow to their ancestors. And bow to the elders. And children receive New Year's cash gifts. And I eat rice cake soup with my family. People think that you should eat rice cake soup to greet the new year.

イ・ビョンチャン Lee Byungchan
(韓国出身・2022年 第1期滞在アーティスト)

福岡アジア美術館にゆかりのあるアーティストたちから、アジア各国の新年の過ごし方をご紹介します！

A1 一人暮らしなので、たいていは友達の家で過ごします。友達が私を自分の家族のように受け入れてくれるので、長い間、離ればなれに暮らしていた「いとこ」のように感じられます。



フィリピン
新年の花火

A2 最近では友達と夕食を共にし、どこかに宿泊するか、部屋をレンタルして、日付が変わるのを待ちます。一緒に花火をみたり、踊ったり、飲み会をしています。

Recently me and my friends would gather for dinner and stay or rent a place until midnight arrives and just watch fireworks, dance, and continue to drink.

ニュー・リーロイ Leeroy New
(フィリピン出身・2022年 第1期滞在アーティスト)

Artist in Residence Program at Fukuoka Asian Art Museum

第2期レジデンス成果展ついに開催！ コロナ禍による中断を経て3年ぶりに再開したあじびのレジデンス事業。第2期レジデンスアーティストとして福岡に滞在した3名による成果展『境界を縁どる一石、呼吸、埋立地』が、12月3日～11日まで開催されました。それぞれ全く違う表現を追求してきた3人が福岡滞在を通して辿り着いた「境界」とは、どんなものだったのでしょうか。編集部による特別レポートをお届けします。

執筆：瀬口賢一(コモン編集室)

2022.9月-12月 第2期アーティスト滞在制作作品



大西康明[日本]
《境の石 室見川》
Onishi Yasuaki (Japan), Stone on Boundary The Muromi River

大西さんは、時間の推移を象徴する石に着目し、福岡市内を流れる室見川の河原の石を採集。その形を銅箔に木槌で打ち出した約3,000ピースのオブジェをボランティアとともに制作しました。それらのオブジェで川の流れや自然の営み、時間の推移を象徴するような空間をつくりあげ、人の営みや行為の集積との関係を探りました。

鑑賞雑観 会場で言葉を交わした大西さんの穏やかな雰囲気からは想像もつかない圧巻の“川”(いや、あれは“時間”)だった。“石”の集合体が織りなす流線体をさまざまな角度から見たが、どこからでも表と裏、内と外など相対する概念を思い起こさせるフォルムに。息を飲んだ。3000もの銅箔トレースは大きさとも色調も異なり、オブジェとしての美しさを感じた。(瀬口)



ソー・ソウエン[福岡]
《Bellybutton and Breathingーお臍と呼吸》、《エグササイズ》
Soh Souen (Fukuoka), Bellybutton and Breathing, Eggsercise

ソーさんは、個や集団の性質や境界をテーマに、人の出生と深く関わる「お臍」と「呼吸」に着目。腹式呼吸をする様子を撮影した映像インスタレーション、および集団で腹式呼吸を行うパフォーマンスを発表しました。さらには、ソーさん自身が身体と壁の間に卵を挟んで「わたし」の境界を探るパフォーマンスも行いました。

鑑賞雑観 まるで胎内に押し込められたような奇妙な体験だ。暗がりの四方からこだまする「スー」、「シュー」などの音に耳を奪われつつも、明確するモニターパネルに目をやると、自分か自分の眼前に他人が迫っているような感覚を得た。また同時に、自分の呼吸音が彼らのそれに共鳴していることにも気づく。社会は隔たりの一途を辿ることはない、と思った。(瀬口)



ゴン・ジェション(耿傑生)[台湾]
《水循環 ウォーターサイクル》
Keng Chieh-Sheng (Taiwan), Water Cycle

ゴンさんは、水の行方をテーマに、福岡の街を調査して出会った埋立地や銭湯に着想した作品を制作。福岡の近代史にみる埋立てによる水の移動と、作家自身が浴槽に立つことで水が溢れ出る経験という、都市と個人が引き起こす水の移動に重ね合わせて、オブジェ、音声作品、パフォーマンス映像によるインスタレーションを発表しました。

鑑賞雑観 台北から来たゴンさんが、見知らぬ土地(福岡)で水の行方を追う。浴槽を担いで、初見だったので「何やってん？この人」と思うわけだが、個人的に以前から関心のあった福岡の水はけ事情(自分の住んでる場所は全然良くない)に置き換えて鑑賞してみると、けっこう目からウロコな発見ができ、ゴンさんのフィールドワーク力に感心しきりだった。(瀬口)

福岡滞在アーティストは、\ここ/にいます！

知ってましたか？舞鶴公園の中にある Artist Cafe Fukuoka(ACF) にも、“あじび”があります！(※)

アーティストの創作活動・交流の拠点(Artist Cafe Fukuoka)。建物は大濠公園から徒歩圏内にある旧舞鶴中学校校舎のレトロな外観が目印です。敷地内(城内)には市内有数の観光スポット「福岡城跡」や「鴻巣館跡」もあり、歴史の変遷や城郭特有の地形などに思いを馳せながらエリア散策も可能。また、福岡アジア美術館からバスや地下鉄で気軽にアクセスできる立地とあり、「アート」をキーワードに福岡の町を回遊する楽しみがいっそう高まります。(※大濠公園そばは福岡市美術館からは徒歩8分)



※福岡市が推進する「Fukuoka Art Next」の一環として、2022年9月に開設した「Artist Cafe Fukuoka」。同所のスタジオは福岡アジア美術館のレジデンス・アーティストたちが作品制作や展示を行うスペースとして活用しています。【アクセス】福岡市中央区城内2-5 ※有料駐車場あり TEL 080-2481-5997 受付時間 11:00～19:00(休館日:毎週月曜日・年末年始)

2023.1月-3月 第3期アーティスト紹介



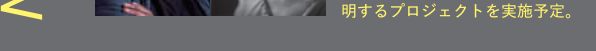
下寺 孝典 [日本]
Shimodera Takano

現在先住つつある福岡の屋台を中心としたまちの風景について社会学や都市史の研究を行う専門家に知見を借りながらフィールドワーク調査を実施。それらをまとめたインスタレーション作品を発表予定。



長野 櫻子 [福岡]
Nagano Sakurako

主題は自己と他者の関係。コロナ禍により社会から孤立した人たちの孤独に焦点を当て、インタビューを行うことで、過去の記憶を蘇るとともに、鑑賞者それぞれに寄り添う作品を制作予定。



ドクペール [ペルー]
(ホセ・ベラドとヒメナ・モラ)
Docupearu (José Belado & Jimena Mora)

地域の人々、歴史に密着した4本の短編ドキュメンタリー映画の制作を通して、福岡市に存在する様々な記憶、人物、伝統、慣習の正当性を証明するプロジェクトを実施予定。

ACCESS: ARTIST CAFE

ARTISTS' INTRODUCTION